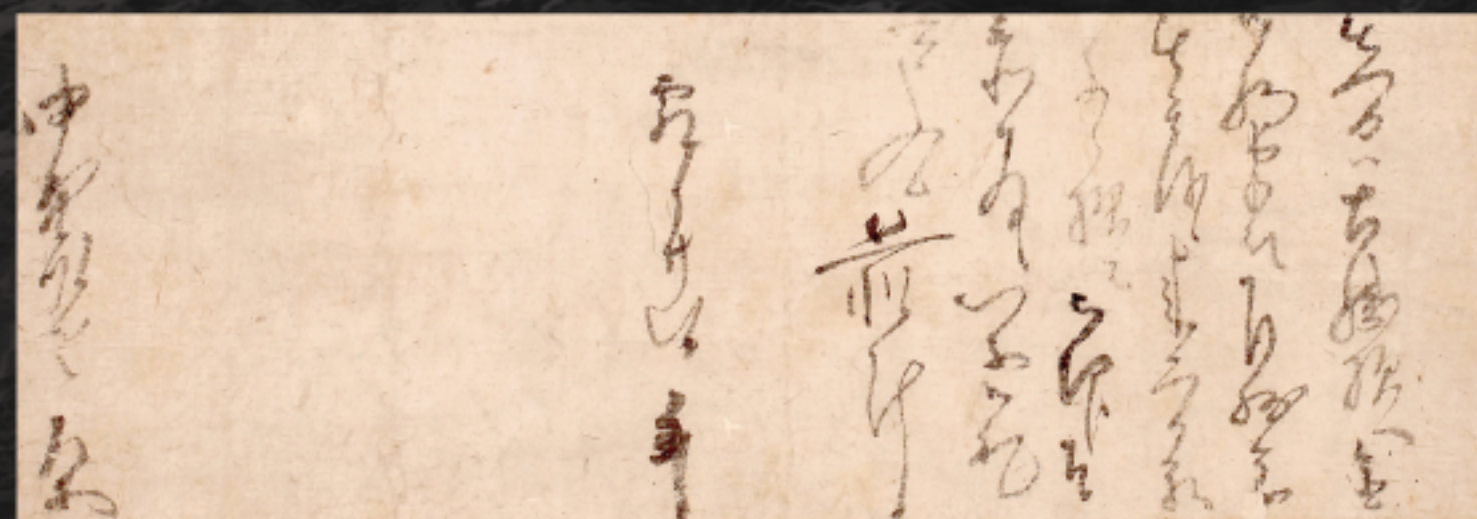
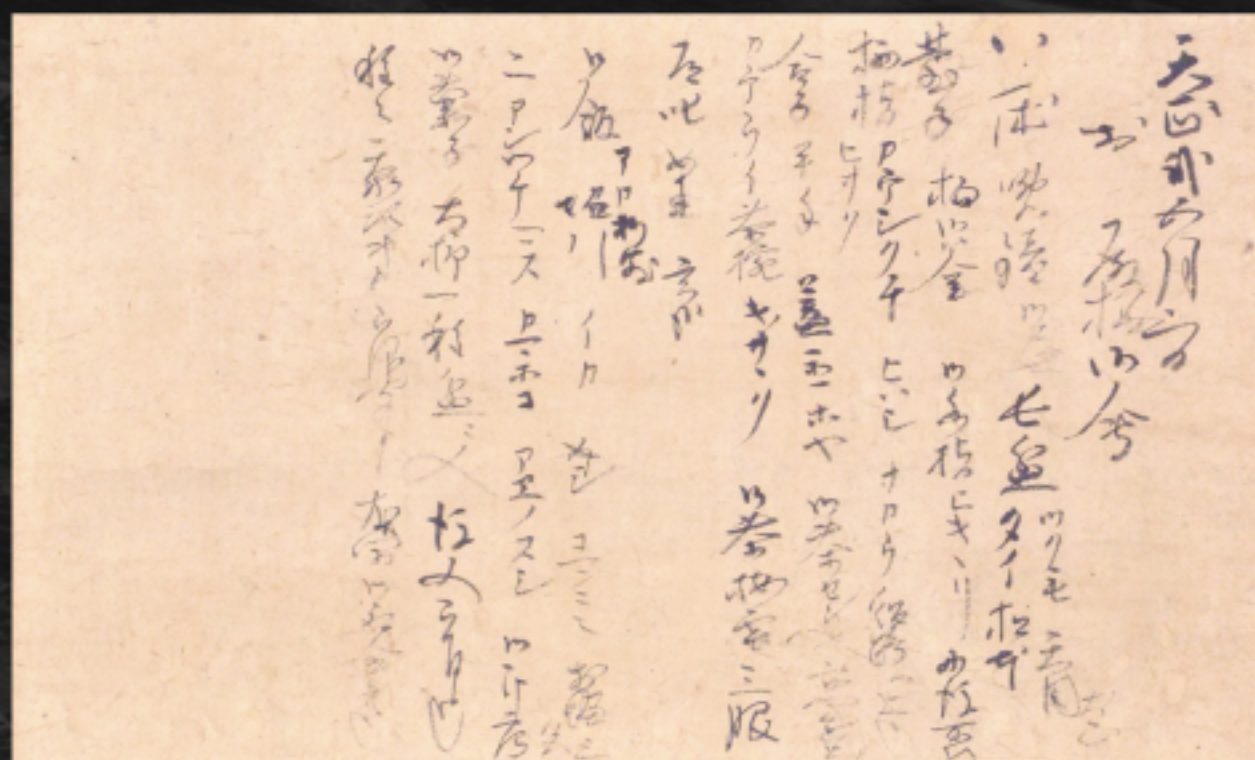


天下三宗匠

山上宗二・千道安とともに



千道安筆 書状(文中に古田織部)



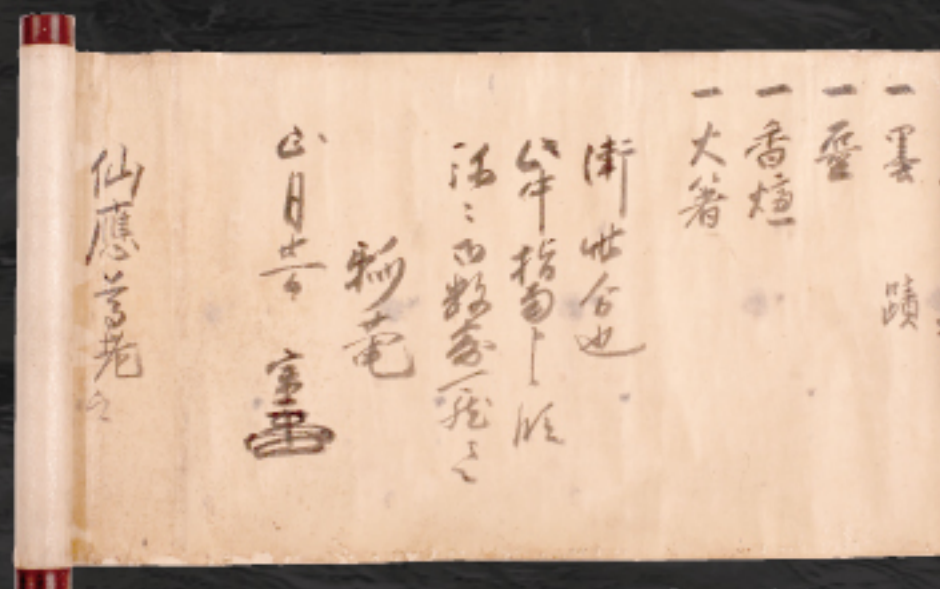
津田宗及筆「信長茶会記」(天正二年)



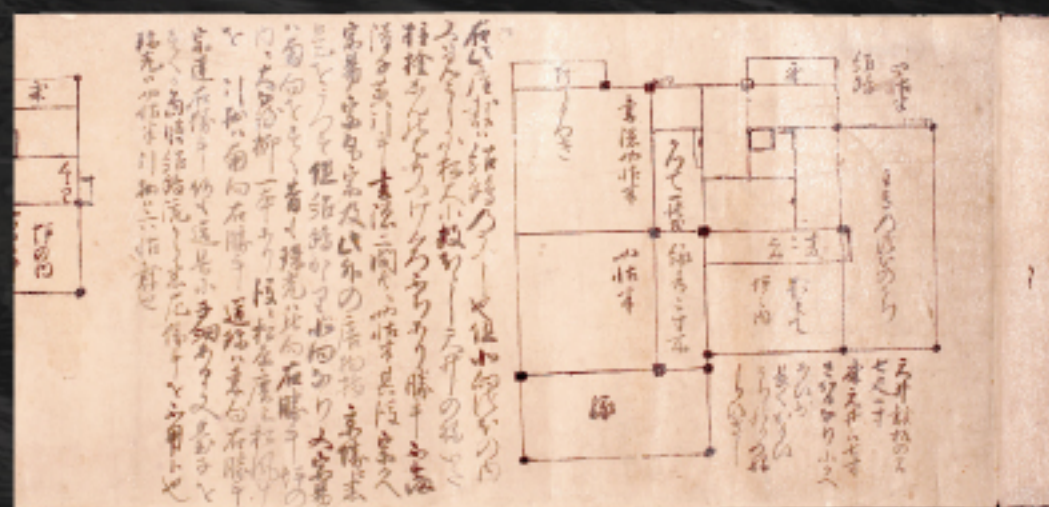
古信楽茶碗 寛々斎在判
了々斎箱書付 銘「乙御前」



二代長次郎作 黒茶碗
如心斎箱書付 銘「三番叟」



山上宗二自筆『山上宗二記』巻(仙応尊老宛)



天下三宗匠とは、織田信長・豊臣秀吉に仕えた今井宗久・津田宗及・千利休の堺の三人の茶人を表します。本展ではそのゆかりのものと、利休高弟の山上宗二、嫡男の道安(紹安)、また当時第一の道具とされた呂宋茶壺など45点を展示します。



唐物蓮華王茶壺



「王」印



「利市」印



「金」印



宝印

その他の主な展示品

- ・津田宗及筆 書状
- ・津田(天王寺屋)道叱筆 書状 松井友閑宛
- ・二代長次郎 黒楽鶴首花入 西本願寺伝来
- ・千利休筆 土風炉切形

今井宗久 (1520～1593)

堺の商人。武野紹鷗の女婿となり、紹鷗所持の名物を多く所持した。堺衆の中でもいち早く信長の知己を得て、信長の茶頭となった。本能寺の変後は秀吉の茶頭となったが、北野大茶湯あたりから、その活躍はほとんどみられなくなった。

津田宗及 (?～1591)

堺の商人。屋号は天王寺屋。津田宗達の子で、父より茶の湯を学ぶ。織田信長、豊臣秀吉の茶頭。その道具評論は安土桃山時代随一であり、茶会記『天王寺屋会記』は有名。津田宗凡、大徳寺住持・江月宗玩の父。

千利休 (1522～1591)

堺の商人。わび茶の完成者として知られ、数多くの弟子を育てた。秀吉の側近という一面もあり、有力大名に対して影響力をもった。やがて秀吉との関係に齟齬を生じ、最後は切腹へと追い込まれた。



山上宗二作 竹茶杓
共筒 銘「洗耳」

2021年 **6月19日**〔土〕－**11月28日**〔日〕

June 19th - November 28th, 2021

9:30～17:00 (入館は16:40まで) 月曜休館(祝翌日休館) 後援:京都市、京都新聞

大人500円／大学・高校生400円／中学生以下300円／未就学児無料／団体(15人以上)100円引

樂焼玉水美術館(堀川通寺之内上ル、入館料300円)との共通券700円

一般財団法人

古田織部美術館

The Museum of Furuta Oribe

古田織部美術館

検索 click



次回予告

織部の
茶の湯とは?

12/4～2022/6/12



京都市北区上賀茂桜井町107-2 地下1階 TEL: 075-707-1800

市営地下鉄烏丸線北山駅下車4番出口右折徒歩3分／京都市バス「植物園北門前」徒歩3分

(タクシーでお越しの場合) JR京都駅より30分／京阪出町柳駅より10分／阪急河原町駅より20分